

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2021年度版)



SDGsセンターの開設セレモニー及びSDGs IDEA FORUM 2020 で最優秀賞を受賞した本学学生デザイン自動販売機の除幕式を開催！



<p>活動の概要</p>	<p>2021年5月14日、本学に開設した「名古屋市立大学SDGsセンター（NCU SDGs Center）」のオープニングセレモニーを山の畑キャンパス1号館にて開催しました。SDGsセンター長の薬学研究科 林教授の挨拶に続き、参列した名古屋市総務局の関嶋主幹、池田主幹よりお祝いの言葉が送られました。</p> <p>また、SDGsセンターの活動の第一弾として、本学人文社会学部の学生とコカ・コーラ ボトラーズジャパン（株）とのコラボレーションにより、学生デザインのイラストをラッピングした自動販売機が同大学山の畑キャンパスに設置され、その除幕式も行われました。デザインは、大学生のアイデアで名古屋市の地域課題の解決を目指す「SDGs IDEA FORUM 2020」で最優秀賞を受賞した人文社会学部学生グループ「NCU Global Justice Project」が、海洋プラスチックゴミ問題の解決の一環として企画したものです。</p> <p>今後も本学では、行政、産業界、金融界などの各機関との連携を深めながら、国際社会共通の課題に積極的に取り組んでまいります。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年5月</p>



名古屋市立大学SDGsセンター 開設セレモニーの様子



自動販売機の除幕式の様子

教養科目「社会学C」 & 「地域連携参加型学習」の合同 講演会開催！



2021年11月13日（土）午後1時半から、名古屋市立大学桜山キャンパスさくら講堂で講演会を開催しました。教養科目である「社会学C」と「地域連携参加型学習」という授業の一貫で日本環境設計株式会社取締役会長、岩元美智彦氏をお招きして、ご講演いただきました。

両授業において扱っているESD（Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育）は、持続可能な社会づくりを担う人を育てる教育活動として、2005年よりユネスコを中心に普及・促進されてきました。現在では、SDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）を達成するための教育活動のひとつとして捉えられています。SDGsに取り組むにあたり、持続可能な開発を構成する経済開発、環境保全および社会的公正の均衡はときに難しさをともない、不可能とも思われることも少なくありません。

今回お話してくださった岩元さんはこうした状況に「あそび心」をもって取り組まれてきました。映画「Back to the Future」に出てくる「ごみで走るデロリアン」からの着想で、「ごみを資源に」する技術と仕組みを開発しました。誰もが参加できる機会をつくって、生活者である一人ひとりが「ごみを資源に」する習慣を身につけること、それを文化にしていこうと試みられています。

岩元さんのお話の後で、岩元さんを囲んで座談会形式で受講生からの質問をもとに、持続可能な社会づくりに関わるこのワクワク感を共有する時間を持ちました。気候変動に関する諸問題によって、未来に希望を見出せず、「気候不安症」をいだく若者も少なくありません。岩元さんの話からは、そうした不安を払拭するような確かさとともに、あそび心をもって取り組むゆかしさを感じることができました。

【担当教員】

- ・「社会学C」：安藤理恵（高等教育院 名古屋市教育委員会連携推進特任教授）
- ・「地域連携参加型学習」：安藤理恵 & 曾我幸代（人間文化研究科准教授）

【出席した学生からのコメント】

- ・映画からの着想で世界を変える技術を生み出せること、その実行力に感動した。
- ・行動することを諦めない強さを持っていて、とにかくカッコいい。自分も見習いたい。
- ・岩元さんのことをもっと知りたくなっただけでなく、積極的に知識を増やしたい、学びたいと純粋に思った。これからの大学時代を有意義に過ごしたい。自分にも何かできるはず。
- ・自分事にするこの大切さを実感した。「正しい」を「楽しい」にしていけば、世界が変わる。
- ・「世界はまだ捨てたものではないのだ」と考えを改めた。希望を見いだせた。
- ・多くの今はまだ無関心な人に、ぜひ聞いて欲しい。自分は変わったと思う。聞いたらみんなリサイクルしたくなるだろう。



国費留学優先配置(特別枠)事業「環境健康安全学」プログラム



活動の概要	主に東南アジア諸国の①海外拠点校②大学間交流協定校から選抜された国費留学生に加え、本学の医学研究科、薬学研究科、理学研究科に入学した私費留学生と日本人学生が、「環境健康安全学」に関連した教育と研究を協働して行います。このプログラムでは、通常環境健康安全学に関連する講義科目の受講および研究に従事することに加えて、グローバルレベルでのSDGsに関連した課題について議論し解決策を提示するアクティブラーニングやSDGs関連機関でのインターンシップを行うなどの特色があります。
活動の時期	2020年度～2026年度
関連URL	MEXT scholarship 国際交流・留学 名古屋市立大学 (nagoya-cu.ac.jp)
期待される効果、今後の展望	このプログラムで学んだSGSに関連する知識や経験を元に、プログラム受講生は東南アジア地域等でのSDGs関連のリーダーになることが期待されています。また、このプログラムの履修を通じて培われた人脈は、グローバルレベルでのSDGs課題解決に役立つことも期待されています。
所属	医学研究科、薬学研究科、理学研究科
氏名	高橋智、上島通浩、安井孝周、頭金正博、肥田重明、熊澤慶伯、雨夜徹
専門分野	公衆衛生、環境科学、衛生化学、生態学



一期生アクティブラーニング発表会

田辺通キャンパスにおける薬学部校舎改築に係る環境対策



活動の概要	<p>田辺通キャンパスでは、2007年度～2009年度の校舎改築工事以降、以下のような環境対策を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■キャンパスモール(アトリウム)へ自然換気システムと地熱利用のクールチューブを設置し、空調負荷の低減を図っています。 ■キャンパスモール(アトリウム)の窓ガラスに断熱性に優れたペアガラスを採用し、日射負荷の低減対策を実施しています。 ■照明及び誘導灯は高効率型器具を採用し、トイレには照明及び便器・手洗い水栓を自動化・節水型器具を採用しています。 <p>その他、各年度における取組みについては、本学の環境報告書をご覧ください。</p>
活動の時期	2007年度～2009年度以降
関連URL	環境への主な取組み



自然換気システム



室外のクールチューブ(吸込み)

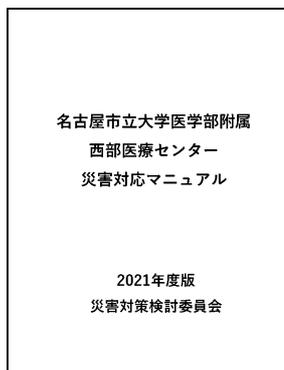


室内のクールチューブ(噴出し)

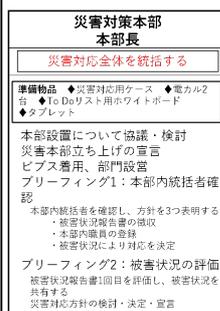
災害対応能力を向上し、地域全体をレジリエントに



活動の概要	<p>【目的】 災害拠点病院としての使命を果たすための備えを充実化し、地域全体の災害対応能力を向上して、レジリエントな地域社会の構築を目指します。</p> <p>【概要】 ■毎年、訓練を行い、見えた課題について対応策を考え、それをマニュアルに落とし込んで改定します。そして、その改定されたマニュアルを翌年の訓練で検証し、さらなる課題に対して対応し、PDCAサイクルをフル回転して、災害対応体制を強化します。 ■災害時に当院が医療を継続するためには何が必要か？どこが弱いか？そのためにはどうしたらよいか？を考え、BCPという計画を策定し、状況変化に応じて改定します。 ■地域への貢献として、EMIS訓練の場を提供し、地域全体の災害対応能力の向上を目指します。</p>
活動の時期	<p>【年1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図上訓練、・ 実動訓練、・ 外来誘導訓練、・ 部門別初動訓練 ・ 災害対応マニュアルとアクションカードの改定 ・ 地域医療機関を対象とした通信（EMIS）訓練 <p>【年数回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内職員を対象とした通信（EMIS）訓練 <p>【5年程度に1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BCP（事業継続計画）の改定
researchmap URL	https://researchmap.jp/nobusasano
関連する論文	「被災しても生きぬくために～レジリエントな自分と社会を目指して」笹野信子、名市大ブックス10 地域に根ざし、寄り添う医療～西部医療センターの挑戦、2021年12月
期待される効果、今後の展望	<p>■南海トラフ巨大地震のみならず、近年頻発する風水害にたいしても強靱な災害対応体制が構築されます。</p> <p>■当院が病院として機能し続け、入院患者さんの命を守り、さらに、多数の被災傷病者を受け入れ、手当てすることができます。</p> <p>■地域の医療機関の災害対応能力を上げることに貢献し、協力して地域全体で災害を生きぬけるようになります。</p>
所属	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 麻酔科学・集中治療医学分野
氏名	笹野 信子
専門分野	麻酔科学、集中治療、災害医療



災害対応マニュアルとアクションカード



災害対応実動訓練の様子（トリアージ）

NCUサステナビリティ・シンポジウム2021報告書刊行



<p>活動の概要</p>	<p>NCUサステナビリティ・シンポジウム2021「防災×SDGs～いま、私たちが備えることは～」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・JICA中部・名古屋市立大学SDGsセンター後援)を2021年11月3日(水)にオンライン(ZOOM使用)にて開催しました。シンポジウムでは、計8チームが防災とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきことは何かを考え、子ども・若者の視点から示し、発表しました。その報告内容および共同ワークショップの概要をまとめた報告書が完成しました。子どもたち・若者たちの声を通して、改めて防災について考える機会となりました。</p> <p>なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。</p> <p>【参加チーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ ・名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ ・名古屋市立大学高等教育院CS: presentation ・オルタナティブスクール あいち惟の森 ・名古屋市立北高等学校国際理解コース ・名古屋市立名東高等学校国際英語科 ・名古屋市立工芸高等学校都市システム科
<p>活動の時期</p>	<p>2022年1月刊行</p>
<p>関連URL</p>	<p>NCUサステナビリティ・シンポジウム2021開催</p>
<p>所属</p>	<p>人間文化研究科(人文社会学部心理教育学科)</p>
<p>氏名</p>	<p>曾我 幸代</p>
<p>専門分野</p>	<p>ESD</p>



NCUサステナビリティ・シンポジウム報告書 (PDF ファイル 6.86MB)

各務原市役所新庁舎のみどりづくり「新庁舎どんぐりのタネプロジェクト」



活動の概要	<p>各務原市役所新庁舎の建設に際して、市民参加型の企画を通して新庁舎への親しみを持ってもらおうと、同市内の公園に自生する樹木の種から苗木を育て新庁舎の敷地に植樹する「新庁舎どんぐりのタネプロジェクト」が始まりました。このプロジェクトは、同市の景観アドバイザーを務める芸術工学研究科大野暁彦准教授の発案により始まり、2021年11月8日（月）には、大野准教授が各務野自然遺産の森で市内の親子連れとともに、どんぐりなど21種類の種子を拾い集めました。採取した種は、市職員らが高さ30cmの苗木になるまで育てた後、新庁舎完成の2023年3月頃に市民の手で植樹する予定です。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43